

分裂を前に鉄労が動労に申し入れ

盛岡問題の白紙撤回と、松崎の謝罪を要求（6月25日付）



87. 7. 6
No. 2594

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二二二七～〇七

国鉄千葉動力車労働組合

鉄労が七月一日に鉄道労連を脱退し、動労革マルー鉄道労連は最大のピンチをむかえている。動労革マルと鉄労の対立で、六月二五日、鉄労が、①盛岡地連「再建」大会の白紙撤回、②鉄労に対する松崎の批判及び暴言を機関紙上で謝罪すること、など四項目の申し入れを行っており、この時点で鉄道労連は完全に空中分解していったのである。このチャンスを生かしきり総反撃に起ちあがろう。

松崎の責任を追及

鉄労の申し入れは、四月以降、動労革マル松崎が鉄労に対し行った批判や盛岡地連の人事をめぐって発生した一方的な「再建」大会問題に対してされたものである。

内容は、①盛岡地連「再建」大会については白紙撤回すること。②六月十九日の東鉄労第六回中央執行委の強行採決は連合体になじまない。白紙撤回し、委員長長責任を明らかにすること。③六月十日、十三日の講演の中で松崎委員長が行った鉄労と鉄労役員に対する批判及び暴言について公式機関及び機関紙上で謝罪すること。④東鉄労盛岡地連組合員の直加入作業を直ちに中止し、委員長長責任を明らかにすること、となっている。これに対し松崎は、申し入れを一切無視し、脱退を煽ったのである。

鉄労を追い出し主導権握る

この間の松崎の行動は、鉄労との主導権争いに追いつめられてとったものではなく、逆に、鉄労を追い出してでも鉄道労連の主導権を奪うことにふみきったということなのだ。鉄労が脱退し、権力や当局との関係が悪くなってもかまわない。そうしないと動労革マルとしての運動がすすめられない、組織がもたないと松崎

鉄労が事務所明け渡し要求
鉄労（志摩好産組合長、四万二千人）は三日、鉄道労連本部に対して、東京都港区芝の鉄労本部の一角を借りている同労連本部事務所を明け渡すよう申し入れた。鉄労本部は同本部など同盟系の産別本部などが同居している反響を二階にあるが、同労連が今年二月に結成されてから、鉄労本部事務所の一部を同労連がまた借りる形で本部事務所を置いていた。鉄労は組織運営をめぐる動労との対立から同労連脱退を決め、今回の申し入れになったもので、鉄労は同日、鉄労から同労連に派遣していた役員、書記の辞任を引き揚げも通告した。

自身が判断したからである。そもそも資本の忠実なイヌとなって労働者の首切りを要求する反労働者集団の野合がうまくいくはずがないのである。鉄労と分裂し、動労松崎が鉄道労連の主導権を握ったにせよ、「松崎は革マルである」という現実には動かしようもなく、分裂し先細りしていく運命なのだ。

また、鉄労が鉄産労と協議会を結成したところで、これもまた性格の違う者同志の野合である以上分裂は必至である。

「戦国時代」に勝利するのは動労千葉・動労総連合だけ

以上、明らかのように、「戦国時代」に突入した国鉄労働運動の中で勝利を勝ちとることができるのは「実力闘争」を掲げ闘いぬく動労千葉・動労総連合だけである。鉄道労連の「空中分解」という絶好のチャンスを生かしきり総反撃しよう。

4日には組合事務所の明け渡しを動労革マルに要求(7/4日)
野合集団の分裂は当然
今こそ総連合拡大へ！